

氏名	小 田 健 司
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3429 号
学位授与の日付	平成 12 年 3 月 25 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	Evaluation of Cyclin D1 mRNA Expression in Gastric and Colorectal Cancers (胃癌, 大腸癌におけるCyclin D1 mRNA発現の検討)
論文審査委員	教授 清水 憲二 教授 清水 信義 教授 辻 孝夫

学位論文内容の要旨

胃癌手術症例および大腸癌手術症例を対象にして、G1サイクリンの1つであるcyclin D1 mRNAの発現を内部コントロールと同一チューブ内で増幅する方法を用いた定量的RT-PCR法により検討した。癌部での発現が正常粘膜部に対して3倍以上を示すcyclin D1 mRNA発現増強例は、胃癌手術症例では36例中8例(22%)であり、大腸癌手術症例では27例中9例(33%)であった。cyclin D1 mRNA発現率は、胃癌手術症例では、壁深達度が固有筋層以上の群、リンパ節転移陽性群、リンパ管侵襲陽性群、病期Ⅲ,Ⅳの群において有意に高値を示し、大腸癌手術症例では、静脈侵襲陽性群において有意に高値を示すとともに、cyclin D1 mRNA発現増強例の予後は有意に不良であった。cyclin D1 mRNA発現の増強は、胃癌においては癌の進行度の予測因子に、大腸癌においては予後の予測因子になると考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は胃癌、大腸癌における cyclin D1 遺伝子の発現と病態や予後との相関を検討したものである。方法としては同一チューブ内で内部標準 GAPDH mRNA と cyclin D1 mRNA とを同時に半定量する RT-PCR 法を用い、手術症例としては胃癌 36 例、大腸癌 27 例を用いた。

癌部での cyclin D1 発現が正常粘膜の 3 倍以上に及ぶものは胃癌で 8 例 (22%)、大腸癌で 9 例 (33%) であった。胃癌では固有筋層以上の深達癌、リンパ組織への侵襲・転移陽性群、病期 III, IV の群において、また大腸癌では静脈侵襲陽性群において、有意に高値を示し、そのような大腸癌患者は予後も不良であった。このように、cyclin D1 mRNA の発現上昇は、胃癌では癌の進行度の予測因子に、大腸癌においては予後の予測因子になると考えられた。

以上のように、本研究はヒト胃癌、大腸癌における cyclin D1 遺伝子の発現上昇と病態との相関を明らかにしたもので、意義のある研究成果と認められた。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。